

2020年3月13日

日本総合健診医学会会員の皆様へ

一般社団法人日本総合健診医学会
理事長 福武 勝幸

新型コロナウイルス感染防止への迅速かつ厳重な対応のお願い

日本総合健診医学会では2月28日付で「総合健診施設等における新型コロナウイルスへの対応について」のお願いを発信いたしました。施設会員におかれましては迅速にご対応いただいていることと存じます。新型コロナウイルス感染症は無症状や軽度の感冒様症状であることも多く、総合健診の受診者の中に、感染者がいつ存在しても不思議のない状況にあり、感染の拡大を防ぐためには基本的な対応を徹底することが重要です。

3月11日12:00現在、クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」に関連した例を除き、国内で新型コロナウイルスの感染者は568例、内訳は、患者504例、無症状病原体保有者64名、国内の死亡者は12名と厚生労働省から発表されており、感染者数は引き続き増加の傾向にあります。

一部の症例の経過概要については、日本感染症学会などが診療施設からの報告として伝えています。感染者との濃厚接触者として無症状で感染が診断された少数の無症状病原体保有者では、体温は37.0℃以下で、白血球数は基準範囲内、CRPは基準範囲内から数mg/dL程度でした。胸部単純エックス線と胸部CTスキャン画像では、症状が無いに関わらず、両側にスリガラス陰影を認め、一部に浸潤影を伴う例も報告されています。これらの症例では、その後、発熱を認めた例もありましたが、全身状態は良好と報告されています。一方、症状が出現した例では、初期症状として発熱、咳嗽、咽頭痛などが多く、倦怠感、鼻汁、息切れ、頭痛なども認められました。体温は36～38℃台で、白血球数は基準範囲内、CRPは基準範囲内から10mg/dLを超える高値まで個人差がありました。初期の胸部エックス線、CTスキャン画像で異常なしと判定された例もありましたが、CTスキャン画像でスリガラス陰影の指摘が多く認められていました。

このように、新型コロナウイルス感染者は、無症状から重篤な病状に至る様々な病状にあり、無症状から軽度の感染者については、本人が感染者との濃厚接触を認識しない限り診断が難しいと考えられます。今後はクラスターとの関係が不明な感染者が増加し、一定の割合で無症状病原体保有者が存在することを想定すると、数多くの国民が受診しなければならない健診には、このような感染者が一定数含まれてくると推測されます。今後、健診施設を介した新たな感染の発生を防ぐためには、健診施設は全職員を挙げて感染防止への意識を高く持ち、最大限の感染防止対策を実施して、受診者と職員双方のリスクを最小化するために可能な限りの手を尽くす必要があります。

日本総合健診医学会では、2月28日付にて「総合健診施設等における新型コロナウイルスへの対応について」として情報を発信しましたが、各健診施設におかれましては、この文書の内容を再度ご確認ください。特に、「職員等への対応について」は、厚生労働省からの事務連絡(令和2年2月24日)「社会福祉施設等(入所施設・居住系サービスに限る。)における感染拡大防止のための留意点について」および事務連絡(令和2年2月25日)「医療施設等における感染拡大防止のための留意点について」の記載に従ったものであり、これと同等の対応を遵守いただくようお願いいたします。

参考資料

日本総合健診医学会、総合健診施設等における新型コロナウイルスへの対応について 重要

https://jhep.jp/jhep/pdf/coronavirus_1.pdf

厚生労働省 新型コロナウイルス感染症について

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

日本感染症学会 新型コロナウイルス感染症

http://www.kansensho.or.jp/modules/topics/index.php?content_id=31

日本環境感染学会 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)への対応について

http://www.kankyokansen.org/modules/news/index.php?content_id=328

事務連絡(令和2年2月24日)「社会福祉施設等(入所施設・居住系サービスに限る。)における感染拡大防止のための留意点について」

<https://www.mhlw.go.jp/content/000601685.pdf>

事務連絡(令和2年2月25日)「医療施設等における感染拡大防止のための留意点について」

<https://www.mhlw.go.jp/content/000600288.pdf>